

2023年6月16日

学校法人三幸学園
福岡ビューティーアート専門学校
校長 岩本 克也 殿

学校関係者評価委員会
委員長 久芳 幸子 委員

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 久芳 幸子 (株式会社 西岡総業 主任)
- ② 竹内 弘行 (株式会社 かいのホールディングス 取締役)
- ③ 能勢 健次 (株式会社 TAT 西日本営業部課長)
- ④ 梅原 彩 (一般社団法人 日本化粧品検定協会 法人サポート部部长)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月15日 (会場 福岡ビューティーアート専門学校 303教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022 年度 学校法人 三幸学園 福岡ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 本多 未佐・磯部 朗子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 久芳 幸子

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ビューティー分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ビューティー分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

- ・業界のニーズとして即戦力を育成する為、委員の皆様から頂戴したご意見をもとにカリキュラムの見直しを実施。
- ・コロナ禍を経てサロン実習を再開し、学生がサロンにて実際に現場で経験をする事で即戦力に繋がる育成を強化。
- ・授業では VR を導入し、技術に対する統一した学びを提供。
- ・技術面と合わせ、「人間力育成」の部分を強化。

② 学校関係者評価委員会コメント

〈竹内委員〉美容科

即戦力育成において、技術面と合わせお客様との接し方など「人間力育成」の部分も強化してほしい。実際にインターンシップを受け入れる際は、学生の人柄やお客様との接し方などを見ている。育成する際は統一した内容で指導を行うと良い。

3. 評価項目の達成及び取組状況

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の理念・目的・育人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4

学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

(1)教育理念・目標

① 課題

業界から求められる即戦力となる人材育成において、特に技術面が求められている。

② 今後の改善方策

インターンシップでの単位取得を検討。

現場での経験がより学生の技術面向上、即戦力となる力を身に付けられると考えている。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈竹内委員〉美容科

技術の統一をはかる為にも中途採用を行っていない。

技術に関しては一括した教育訓練を1年間同じカリキュラムで実施をしている。

また、テストは見える化し他者と比較するのではなく、自分のスタイルで学べる様実施している。

企業理念、会社としての考え方、人間力についてもスタッフに統一し伝える事が大切である。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

デジタル化を更に導入・推進する方向で進めているが、教材・事務作業のデジタル化に対する現場の教職員の対応やICTリテラシーに課題がある。

② 今後の改善方策

教職員向けICTリテラシー向上の研修を継続し実施していく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈能勢委員〉トータルビューティー科

コロナ禍が落ち着き、リモートで実施する事での効率アップの部分は継続しつつ、学生が実際に実施する内容でコンテスト等は緊張感から得られるものも多くある為、やはり対面での実施が望ましい。今後も引き続き盛り上げていきたいと考えている。

授業の中で VR を導入しデジタル化していく中で、コミュニケーション力向上も大切にしながら、引き続き授業の質を向上してほしい。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

学生が育ってきた環境も大きく変化してきており、自ら質問したりなどの自己主張を苦手とする学生が増えている傾向にある。また、少人数制で授業を展開していたが、教員のデモンストレーションを確認する際に各学

生によって確認する位置が異なっていた。

② 今後の改善方策

本校の人間力育成のポイントとして自己啓発の授業があるが、指導資格の取得者を増やす。

VRを導入し、全学生が教員と同じ目線で技術の確認ができる事によって、授業の質を向上、また学生の学びに対する満足度も向上。

検定内容の見直し、更にバージョンアップした内容の検定を導入し、即戦力育成に繋げる。(アイブロウワキシング検定、City&Guilds)

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈梅原委員〉トータルビューティー科

化粧品検定においては、学生だけでなく一般の方の受験も増えている。美容関係者では、美容部員やエステ以外にも製造・企画・開発、また美容関連のライティング職の方が受験をしている。

コロナ禍を通し働き方や学び方のスタイルに変化が出てきている。学生の段階からより良い内容の資格を取得できる事は学生自身の強みとなる為、引き続き継続すると良い。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

コロナ禍を経て、対面授業を再開すると退学者が増加傾向にある。

しかし、本校では例年減少傾向ではあるが引き続き退学者低減が課題である。

② 今後の改善方策

学生に対し個人での対応をより一層強化する。

教職員間での連携を強化し学生の情報を共有する事で、多くの教員が学生個人の対応を行う事ができる。

本校の教育理念でもある、人と人との繋がりを持って人間力を育成していく部分に価値観を持ってもらえる指導を諦めずに行っていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈久芳委員〉美容科・トータルビューティー科

ビューティーアート専門学校の学生は挨拶が素晴らしく、また、スタッフが重たい荷物も持っていた際、学生から「荷物お持ちしましょうか？」などの声かけがあった。

学生と教員間の雰囲気も大変良い為、学校全体が明るく活気を感じている。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	4
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

就職の時期は職種によっても異なるが、周りと比較し焦って内定を決めてしまいその後辞退するという学生が見受けられた。

② 今後の改善方策

就職指導の際は、学生の現状を見極めて指導にあたる事を念頭におく

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈竹内委員〉美容科

サロンでも実際にアンケート取得後の面談を実施し、スタッフの今後の将来を見据えて道筋を立てる事を意識している。40～50代の社員もいる為、訪問美容なども取り入れながら長く安心して働き続けられる環境を整えている。ビューティーアート専門学校での、美容師国家資格取得へ向けての取り組みや自己啓発の授業など引き続き継続してほしい。

〈能勢委員〉トータルビューティー科

現在コロナ禍も落ち着き、業界の業績も回復傾向にある。採用活動を控えている企業もあるが、集客・単価共に上昇傾向にある。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

コロナ禍にて海外研修の実施ができなかった。

② 今後の改善方策

2023年度には、海外研修の内容を充実させ新たに実施を予定している。

インターンシップなども引き続き継続し学生の間には様々な事に挑戦し、視野を広げる機会を設けていく。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈竹内委員〉美容科

インターンシップを受け入れるにあたり、技術面というよりかは、学生の人柄やお客様に対する接し方などを見ている。

また、業界全体で物販ビジネス、ECでの販売なども重視されている。プレゼンテーション能力を身に付けておく事で現場に入社した際、給与等にも関係してくるので学生のモチベーションに繋がる。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

毎年入学者数は増加傾向にあるが、コロナの影響で学生が希望する学科に偏りができている。

メイクやネイルが学べるトータルビューティー科の希望者が減少した。

② 今後の改善方策

学校説明においては教員が主体的に行うが、在校生と多く接して頂き入学後のイメージを持ってもらう取り組みの強化。

遠方で参加が難しい入学希望者へ向け、オンラインオープンキャンパスの実施。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈梅原委員〉トータルビューティー科

コロナ禍を経てお客様とのコミュニケーションの取り方に変化が出ている。

今までお客様にタッチアップでの商品紹介を行っていたが、オンラインツールを元にカウンセリングを行い、実際にお客様自身でお試し頂きアドバイスをしながら商品紹介を行う形式も見られた。

また、若いスタッフなどが積極的にオンラインツールを活用しアイテム紹介や店舗のPRを行うなど、新しい形も合わせ継続できると良いのではないかと。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度～2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度～2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9) 法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特になし

適切な学校運営と情報公開を継続していく。

② 今後の改善方策

特になし

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域社会と繋がり、産学連携を通じた教育活動を展開していく。

教育訓練にて受け入れる体制と本校を選択頂ける環境を引き続き整えていく。

② 今後の改善方策

今後コロナ禍が落ち着き、地域貢献できる場が増えていく事が予想される為、教職員、学生共に積極的に参加していく。

専門実践教育訓練を 2023 年度申請予定。

③ 特記事項

特になし

④ 学校関係者評価委員会コメント

〈能勢委員〉美容科・トータルビューティー科

学校の設備等が充実している学校が選ばれる傾向にある。

また、オープンキャンパスでの美容体験は勿論、在校生の接し方や教員との関わりを通しての体験が学校を選択する際のポイントになっている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

〈久芳委員〉美容科・トータルビューティー科

教職員が学生へ対する取り組みについて知る事ができ大変良かった。

学生の素敵な部分を活かし、今後も業界の即戦力となる人材育成を継続してほしい。

〈竹内委員〉美容科

ビューティーアート専門学校の教職員は、学生に対し熱い思いを持って日々指導にあたっている。

実際に、ビューティーアート専門学校の卒業生を受け入れており、店長として活躍をしている卒業生もいる。

引き続き、美容業界全体の為にもスタッフ育成に力を入れていきたい。

〈能勢委員〉美容科・トータルビューティー科

中々自ら発言できる学生が少なく感じている。ビューティーアート専門学校にて教職員が学生に対し行っている「あきらめない教育」は今後も引き続き必要な事である。今後、社会（業界）に出る際に必要な部分を学校側で継続し伝えてほしい。

〈梅原委員〉トータルビューティー科

美容の技術習得は勿論だが、実際に現場へ出ると更に技術だけではなく物販などのご紹介も入ってくる。その中の1つに化粧品というアイテムも含まれてくる為、技術提供と合わせより美容業界を盛り上げていきたい。

今後も「あきらめない教育」を教職員で学生に対して行うとともに、特に生徒の技術面の向上を図り、美容業界で即戦力として活躍できる人材の育成に力を入れていきたい。